

1. 文化財保護課 Tel : 049-224-6097

(1) 文化財の保存と活用

①指定文化財補助事業

【令和8年度事業予定】

- ・川越市には、国・県・市指定文化財等が264件あり、文化財保護団体の保存活動や、有形文化財の保存修理等に対して、計画的に補助金交付による所有者等への支援を行う。

【令和7年度事業実績】

- | | | | |
|-------------------|-----|---------------|-----|
| ・無形民俗文化財の後継者養成等 | 18件 | ・建造物等の防災設備保守等 | 10件 |
| ・有形文化財・民俗文化財の保存修理 | 6件 | ・史跡・天然記念物の保存等 | 11件 |
| ・団体の育成 | 2件 | | |

②新指定文化財

【令和8年度事業予定】

- ・指定文化財の悉皆調査を行い、保存と活用に努める。また、各種未指定の文化財調査を進め、価値の高い文化財の発見に努める。

【令和7年度事業実績】

- ・新たに指定となった文化財はなかったが、指定文化財の現況について悉皆調査を実施した。

③文化財防火訓練

【令和8年度事業予定】

- ・毎年1月26日は、「文化財防火デー」となっている。これは昭和24年の法隆寺金堂壁画の焼損を機に定められた日で、文化財を火災や震災等の災害から守ることを目的としている。川越市でも、この日に合わせて文化財防火訓練を行い、文化財保護の意識の高揚を図っており、喜多院、東照宮、日枝神社を会場として川越地区消防組合等と共催で、防火訓練を実施する予定である。

【令和7年度事業実績】

第68回川越市文化財防火デー

- ・実施日 令和8年1月23日
- ・実施場所 川越城本丸御殿・三芳野神社
- ・出動消防車両 8台（梯子車・化学車・ポンプ車など）
- ・参加者数 60人

④川越市文化財保存活用地域計画の推進

【令和8年度事業予定】

- ・令和5年度に文化庁から認定された川越市文化財保存活用地域計画について周知に努め、その計画を推進する。また、文化財保存活用支援団体の指定に向けた取組を進める。

【令和7年度事業実績】

- ・行政文書と石造物の調査を実施した。また、計画に基づく講座を、令和7年10月に高階公民館、同年11月に大東公民館、令和8年3月に名細公民館にて実施した。

⑤埋蔵文化財

【令和8年度事業予定】

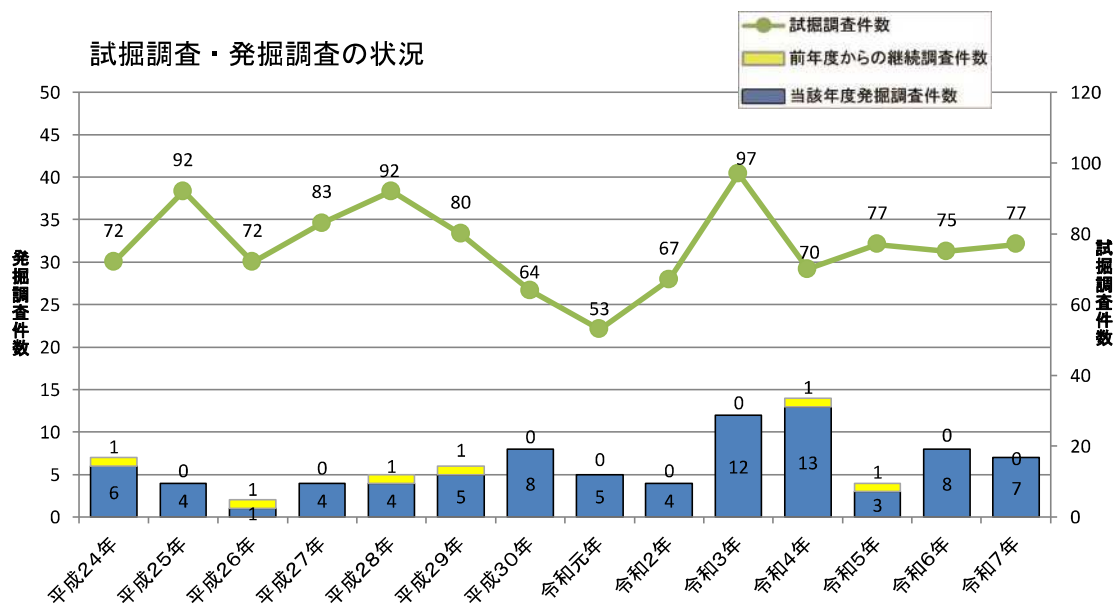
- ・川越市内では、現在345か所の埋蔵文化財包蔵地が確認されている。これらは、国・県の指導のもと、分布調査を行い設定されたものである。こうした埋蔵文化財包蔵地の範囲内で土木工事を行う場合は、工事に先立って埋蔵文化財の存否を確認する試掘調査が必要である。試掘調査により、埋蔵文化財の存在が確認された場合、開発者との間で遺構の保存について協議し、どうしても破壊を免れないものについては、遺跡の姿を記録保存し後世に伝えるため発掘調査を実施する。

【令和7年度事業実績】

77件の試掘調査及び7件の発掘調査を実施した。以下にその成果の一部を紹介する。

- ・大塚遺跡（中台2丁目）第5・6次調査では、縄文時代中期末の竪穴建物4棟、竪穴建物と思われる遺構5棟、土坑4基、複数のピットを検出した。
- ・川越城跡（郭町）第55次調査では、近世川越城の造成面を確認し、造成面の下からは中世に遡るとされる堀跡1条を検出した。
- ・赤城遺跡（古谷上）第1次調査では、平安時代と思われる土坑1基とピット9基を検出した。
- ・八幡前・若宮遺跡（的場）第5次調査では、奈良時代の竪穴建物1棟を検出した。
- ・弁天南遺跡（仙波町3丁目）第18次調査では、古墳時代前期から後期にかけての竪穴建物10棟、古墳時代後期以降と思われる竪穴建物1棟、中世の道路状遺構1条、多数の土坑・ピットを検出した。
- ・川越城跡第56次（郭町2丁目）では、江戸時代の建物基礎及び木柱の抜き取り用に掘削されたと考えられる土坑群を検出した（令和8年3月末時点）。

以上のように、地域の歴史を物語る多くの遺構・遺物が出土している。



⑥ 関係団体との連携

【令和8年度事業予定】

- ・文化財の保護・普及を目的に活動している文化財保護団体である川越市文化財保護協会と川越氷川祭の山車行事保存会を対象に、事業の実施や運営に対して支援を行う。

IV 文化財保護 文化財保護課

【令和7年度事業実績】

- ・川越市文化財保護協会実施事業の文化財見学会（4回）、文化講演会（3回）、会報の発行等の事務援助を行った。川越氷川祭の山車行事保存会の総会（1回）、会議を3回、研修会を1回、開催し、事務援助を行った。

伝統的建造物群保存地区

川越市川越伝統的建造物群保存地区は、昭和50年の保存対策調査の後、長年にわたるまちづくりの取組を経て、平成11年4月に都市計画決定を行い、同年12月に国から重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けた。地区の範囲は札の辻から仲町交差点までの南北約430m、東西約200m、面積約7.8haである。

地区内には、重要文化財大沢家住宅をはじめとする蔵造り商家や本市のシンボルの存在である「時の鐘」のほか、近代洋風建築や看板建築など、江戸時代以降の各時代の特徴を表す様々な建築様式が伝えられている。これらは、我が国の都市建築の発展をうかがわせる貴重な町並みを構成している。

なお、市民が主体的にまちづくりに取り組んでいることも高い評価を得ている。

令和7年度において、伝統的建造物の特定物件の合計は136件である。また、保存事業として、伝統的建造物の修理5件、応急修理3件、景観事業1件、合計9件の補助事業を行った。伝統的建造物群保存地区内及びその付近には、簡易型屋外消火栓等の防災設備が設置され、放水訓練を含む自治会主催の防災訓練を毎年実施している。令和7年度は、防災設備の設置場所確認や放水訓練等の防災訓練を2回実施した。



川越市川越伝統的建造物群保存地区の範囲

指定文化財一覧（令和8年4月1日現在）

国 指 定 文 化 財			県 指 定 文 化 財			市 指 定 文 化 財		
種	別	件	種	別	件	種	別	件
重 要 文化財	建 造 物	5	有 形 文化財	建 造 物	9	有 形 文化財	建 造 物	50
	絵 画	2		絵 画	2		絵 画	1
	工 芸 品	3		彫 刻	2		彫 刻	12
	書 跡・典籍・古文書	1		工 芸 品	5		工 芸 品	18
	無 形 民 俗 文 化 財	1		書 跡・典籍・古文書	7		書 跡・典籍・古文書	28
記念物	史 跡	2		考 古 資 料	1	民 俗 文化財	考 古 資 料	6
指 定 文 化 財 計		14		歴 史 資 料	1		歴 史 資 料	6
重要伝統的建造物群保存地区		1	民 俗 文化財	有 形 民 俗 文 化 財	1		有 形 民 俗 文 化 財	20
重 要 美 術 品		2		無 形 民 俗 文 化 財	6	記 念 物	無 形 民 俗 文 化 財	12
登 録 有 形 文 化 財		12	記 念 物	史 跡	3		史 跡	31
登 録 記 念 物		1		天 然 記 念 物	1		天 然 記 念 物	8
				旧 跡	4			
計		30	計		42	計		192
総 計			総 計			264 件		

国指定史跡「河越館跡」

市内上戸・鯨井地区にある河越館跡は、鎌倉～南北朝時代に活躍した武蔵武士河越氏の館跡であり、昭和59年12月6日に国の指定史跡となった。指定面積は、48,509.18㎡である。

この館跡の整備を進めるにあたり、昭和60年度に「史跡河越館跡保存管理基本計画」を、続いて平成12年度には「河越館跡整備基本計画」を策定した。整備に当たっては国・県の補助を受けつつ土地を公有化、遺構確認のための発掘調査を行い、その成果に基づき整備内容を



検討、整備工事を実施している。発掘調査は、歴史研究者による調査指導委員会の指導・助言を受けながら現在までに18回実施した。具体的な整備内容の検討は、歴史・建築・造園などの専門家から成る整備検討委員会によって進められ、平成17年度に「河越館跡史跡整備基本設計」を策定。続いて、平成19年度には「河越館跡(第1期)史跡整備実施設計」を策定した。この実施設計に基づき平成19年度から河越館跡(第1期)史跡整備工事を実施し、平成21年11月15日に「国指定史跡河越館跡史跡公園」を開園した。この公園は、貴重な史跡である河越館跡の保存を図るとともに郷土学習の場、市民の憩いの場として有効な活用を目指すことを目的とする。全体が「史跡の広場」「茶太郎広場」の2つにゾーニングされ、「史跡の広場」では、河越氏時代の遺構を復元表示、「茶太郎広場」には、広々とした芝生の広場の一面に中世の銘茶「河越茶」に因んだお茶の木が植栽されている。

令和元年度に公有化予定地を全て公有化し、令和2年度に道路予定地、令和3年度にガイダンス等予定地を公有化した。令和2、3年度は遺構確認調査を行い、第2期整備に向けての準備を進めた。令和4、5年度は、「川越市河越館跡整備検討委員会」で保存活用計画について検討した。令和6年度は、「史跡河越館跡保存活用計画」を策定し、館跡西隣の未整備地への道路移設工事及び駐車場の整備工事を行った。令和7年度は、保存活用計画に続く第2期整備基本計画の策定に向けた検討を開始するとともに、遺跡発表会において過去の発掘調査の成果を発表した。令和8年度は、引き続き第2期整備基本計画の検討を行うとともに、シンポジウムを開催する予定である。

国指定史跡「山王塚古墳」

市内豊田町3丁目・大塚1丁目にある山王塚古墳は、飛鳥時代（7世紀）の後半に築造された日本最大の上円下方墳である。平成24年度～平成29年度に4回の発掘調査を行い、平成30年度には成果を取りまとめて刊行した『山王塚古墳総括報告書』において山王塚古墳の歴史的・学術的価値を明らかにした。これを基に庁内外の関係機関と調整するとともに地権者・占有者の同意を得た上で、令和4年8月31日付けで文部科学大臣へ宛てて、山王塚古墳が国史跡の価値を有する旨の意見具申を行った。令和4年12月16日には意見具申の内容の調査を行った国の文化審議会が文部科学大臣に対し、山王塚古墳を国史跡に指定するよう答申した。令和5年3月20日の官報告示（文部科学省告示第14号）をもって山王塚古墳は国史跡に指定された。指定面積は8,409.43㎡である。令和4、5年度には、現地見学会を開催した。令和6年度は新たに「川越市山王塚古墳整備検討委員会」を発足させ、保存活用計画策定に向けた検討を開始した。令和7年度は、保存活用計画について検討するとともに、現地見学会を開催した。令和8年度は、引き続き保存活用計画の検討を行う予定である。



市指定史跡「永島家住宅（旧武家屋敷）」

永島家住宅は、川越城南大手門近くの武家地であった南久保町（現三久保町の一部）の一角に構えられた武家屋敷である。古文書や絵図資料から、この武家屋敷に住んでいた武士は、江戸後期の松平大和守家時代には禄高250石から350石の藩士、幕末の松平周防守家時代には禄高110石の藩士が住んでいた。特に周防守家時代は御典医の屋敷であり、ここに住んでいたことがわかる藩士の石原昌迪は、30人ほどからなる国元の筆頭藩医の役職にあったことが確認できる。



平成18年3月に市指定文化財に指定され、平成24年3月より庭園の一般公開を行っている。

【令和7年度 見学者数】 毎週土曜日 9:00～16:00公開

公開月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
公開日数(日)	4	8	4	4	5	4	5	5	4	4	4	4	55
見学者数(人)	169	258	62	62	49	62	232	202	62	117	116	141	1,532

※特別公開日 5月4・5・6日（GW）、10月19日（川越まつり） 計4日

出版物

「川越建物細見」をはじめとしたパンフレット及び書籍・地図を発行し、市民の文化財保護に対する認識を高める手段として活用されている。なお書籍・地図については有償にて頒布しており、文化財保護課のほかに、市立博物館、川越まつり会館でも入手できる。

パンフレット	川 越 建 物 細 見
	国 指 定 史 跡 河 越 館 跡
	川 越 市 指 定 文 化 財 時 の 鐘
	川 越 の 祭 り と 芸 能
	国 指 定 史 跡 河 越 館 跡 史 跡 公 園
	川 越 城 中 ノ 門 堀 跡
	市指定史跡永島家住宅（旧武家屋敷）
	国 指 定 史 跡 山 王 塚 古 墳
	川 越 氷 川 祭 の 山 車 行 事（日本語 ほか9か国語）

書籍・地図	川 越 市 の 文 化 財
	ハ ン ド ブ ッ ク 川 越 の 歴 史
	続 川 越 の 伝 説
	川 越 の 人 物 誌 第 1 集
	川 越 の 人 物 誌 第 2 集
	川 越 の 人 物 誌 第 3 集 女性編
	川越氷川祭りの山車行事調査報告書
	川 越 市 文 化 財 散 策 マ ッ プ
	川越の民俗調査報告書第1集 福原・南古谷地区の民俗
	川越の民俗調査報告書第2集 山田地区の民俗
	川越市指定文化財 旧山崎家別邸調査報告書
	元 町 二 丁 目 井 上 家 文 書 目 録
	川越市山田地区民具調査報告書 鹿倉家の民具
	川 越 の 寺 院 建 築
	時 の 鐘 耐 震 化 工 事 報 告 書